

総合計画策定に向けた若手社会人とのタウンミーティング（要約）

テーマ：未来の理想的な松山

令和5年8月31日（木曜日）

【市長】 皆さんこんにちは。今日は平日ですので、皆さんそれぞれのお仕事でお忙しかったのではないかと思います。7月のワークショップに続きまして、ご参加をいただき、誠にありがとうございます。この松山市のタウンミーティングですが、私が市長に就任させていただいた当初から始めています。市長の任期は4年ということになります。松山市は全部で何地区あるかという、旧北条市、旧中島町合わせて41地区に分かれます。この地区ごとにタウンミーティングをしようということで、市長1期目はこの41地区を二巡りさせていただきました。2期目からは、世代別のタウンミーティングや職業別のタウンミーティングなど、いろんな角度から皆さんの声を聞かせていただきたいということで、世代別では高校生世代や大学生・専門学校世代、子育て世代、働き盛り世代、シルバー世代とのタウンミーティングをしています。職業別では農業に携わる方々や商店街の方々に集まっていただいたのタウンミーティング、またコロナで全体的に経済が影響を受けたときには、経済の実態をよく知る金融機関の方々に集まっていただいたのタウンミーティングを開催させていただきました。こうやってタウンミーティングを重ねていると「松山市の取り組みを知ることができてよかった」と言ってもらえるので、3期目からは消防士や救急隊員、保健師、防災・危機管理課の職員などが、広報タイムという形で松山市の取り組みをご紹介します。4期目に入らせていただいて、今もタウンミーティングを継続中です。先日この総合計画の策定に向けたタウンミーティング特別版の大学生版をさせていただいて、それが130回目でした。今回が131回目ということになります。松山市にはいろんな計画があります。例えば環境の計画であったり、交通の計画であったり、教育の計画であったり、さまざまな計画があるのですが、最上位に来るのが総合計画になります。今、この総合計画を切り替える作業していて、多くの皆さんの声を聞きながら松山が目指す未来の姿を描いていこうと考えています。特に大切にしたいのが、将来のまちづくりの主役の皆さんです。将来のまちづくりの主役になる若い方の声を聞かせていただきたいと思い、小学生、中学生、高校生、大学生など約3万人にアンケート調査を実施するとともに、今日のように松山の未来を語り合うタウンミーティング特別版を実施しているところです。7月22日に大学生と意見交換させていただきました。10月に高校生版もさせていただく予定です。将来の話なので正解はないと思います。若者らしい自由な発想やアイデアについて意見交換をさせていただき、できる限り計画に活かしていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

1 班：理想的な「観光」の未来の姿について

【男性】 1 班は観光をテーマに、10 年後 20 年後の未来像を考えさせていただきました。「みんなが好きになる♡スマート観光地松山」という未来像を検討したのですが、「みんな」には、県内に来られる観光客の皆さんもそうですし、私達も含め地元のみんなが地元のことを好きになる、松山のことを好きになるという意味が込められています。具体的には4つ挙げさせていただいていますが、1つ目は「オーバーツーリズムのない松山」です。昨今、京都などでオーバーツーリズムが話題になっています。道後も週末を中心に多くのお客様が来られており、地元の方々も苦悩していると聞いています。そこで、そういったものがない松山ということを一挙挙げさせていただいています。2つ目は「松山市民全員がコンシェルジュ」です。おもてなしのまちという風に言われていますが、1人1人が地元のことを好きになり、来られた方に松山の魅力的なものを発信していくべきだということで挙げさせていただきました。3つ目が「応援したくなるまち」です。来ていただいた方に松山を好きになっていただくのは当然ですが、例えば県外の企業も松山を好きになっていただき、投資などをしていただくことでまちが活性化していくことも10年後20年後には必要ということで挙げさせていただいています。4つ目は「DXでシームレス観光」です。やはり10年後20年後となると今の私達では想像できないようなものがたくさん出てきていると思います。例えば、ロープウェイ街や道後温泉の周辺で、交通渋滞状況や駐車場の空き具合の可視化ができると思います。また、「自動運転バス等による周遊」ができるの良いといった意見もありました。海外等では最近カーフェリーが流行っているようですが、まちなかに車を入れずに歩行者が周遊しやすくなると聞いています。そういったものをどんどん取り入れていくことが必要だと思います。実際に何ができるかについて深掘りすると、まず、受け皿作りということで新しい観光地を作ることが重要だと思います。ハード面の整備になりますが、例えばカジノや遊園地など大きな観光地になりうる受け皿があれば、オーバーツーリズムに関しても1つの打開策になると思います。また、松山市民が松山を好きになることで、地元の魅力的なものを松山に来られた方にいろいろとアナウンスができると思います。また、出資を促すことで、先ほどの話にも繋がりますが、県外からの企業等の誘致も含めて、例えばホテルや、ファンドも面白いと思います。そして今まで松山になかったような大きな設備や新しいものを作っていく。例えばプロ野球チーム。プロのスポーツチームはすごく魅力があると思いますので、1つの選択肢だと思っています。最後に、キャッシュレス決済の連携やリアルタイムの通訳です。今では携帯電話で通訳が簡単にできますが、より進んだ形で海外のお客様とリアルタイムで会話できるようになると良いと思います。決済方法も最近はいろいろな方法がとれると思います。松山だと県外で使われているSuicaなどの決済手段が使いづらく、特に海外の方にとっては何のことか分からないということにもなりかねませんので、DXの力を使って改善していくべきだという意

見が出ました。

【市長】 いろいろ考えていただきありがとうございます。オーバーツーリズムについては実際に、クルーズ船が松山に来たときに、道後は人があふれてしまいました。道後にも素敵なお店がありますが、松山市の中心部にも良いお店があるので、分散していただくようにすることが必要だと学ばせていただいたところです。観光・国際交流課や観光コンベンション協会、民間の方とも連携して、分散していただけるようにしていくことが大事だと思いました。また、ホテル業界はものすごくマーケティングをしているそうです。日曜日の朝の情報番組でもホテル業界のマーケティングについて話題になっていました。私が市長に就任してからどんなホテルができたかと考えたのですが、代表的なものでは、カンデオホテルズ松山 大街道、ダイワロイネットホテル松山、ドーミーイン松山、ベッセルホテルズは市駅のレフ松山市駅ですね。三越前にホテルビスタ松山、松山商業高校のところにホテルルートイン松山、花園町にコンフォートホテル松山と、多くのホテルができました。コロナがあったので少し停滞していましたが、しっかりホテル業界の方は見ていると思います。松山では第3次産業に従事している方が7割から8割いらっしゃるので、これからも観光を大事にしながら、経済を元気にしていきたいと思っています。1回目のワークショップで海外のホテルのことについて何か意見があったと聞いたのですが、どのような意見でしたか。

【男性】 ちょっとうろ覚えですが、確か広島県の生口島では、大変高級なホテルができていて、かなり海外からも富裕層の方が来ています。松山はまだそういった施設がすごく少ないと思います。先ほど市長がおっしゃっていたように、どちらかというとシティホテルの出店が多いと思いますので、やはり幅広い年齢層もそうですし、幅広い層のお客様に来ていただくことも重要だという意見がありました。

【市長】 ありがとうございます。この間、長崎市に勉強に行きましたが、長崎市は駅のところに外資系のホテルが出店していて、「どうですか」と伺うと、「お昼に優雅な時間を過ごしている方もいらっしゃいますよ」「ちょっと値段は高めですが結構賑わっています」とおっしゃっていました。長崎市の人口は40万人程ですが、松山は50万人なので、多分外資系の方もコロナ禍の立ち上がりを見ていらっしゃると思いますので、海外資本も大いにありうるのではないかと思います。また、自動運転については何らか導入されると思います。

2班：理想的な「交通」の未来の姿について

【男性】 私達2班は交通分野の理想とする10年後20年後の松山の未来像について話し合いを行いました。未来像は「四国一移動しやすい松山」です。具体的にはSuicaなどの決済との連動です。松山はい〜カードがあり、SuicaやICOCAなどの決済が使えず非常に不便だと思います。JR松山駅と松山市駅の動線の整備や、市内電車の路線の拡

充という案を書かせていただいたのですが、利便性に重点を置いた意見がたくさん出ました。まず安全な道路空間の整備ということで、電車やバスを利用する方が増えると渋滞がなくなるのではないかと、バスを使いやすくするためには2階建てのバスが走るというのではないかと、全ての都道府県への高速バスが行き来していると良いのではないかと、都会ではもう既に普及しているようですが、オンデマンド型のタクシーが進出してきているのではないかとという意見が出ました。次に電車・駅を便利にということ、先日ニュースにも出ていましたが、新幹線を四国に導入できたら良いという意見や、松山市駅やJR松山駅をもっと拡充したら盛り上がるのではないかとといった意見が出ました。松山空港から市街地へのアクセスについて、国内で3番目に市街地との立地が良い空港が松山空港ということで、立地の良さを強みとして活かす方法はないかという意見が出ました。最後に、未来のモビリティについて、バスの自動運転が進むのではないかと、自動運転になると当然運転手などの人件費を抑えることができ、24時間営業が可能になるのではないかと、全ての車が自動運転になると交通事故が限りなくゼロに近づくのではないかと、AIを活用したダイヤになると、待ち時間を最小限にしたダイヤを作ることができるのではないかと、10年20年では実現が難しいかもしれませんが、車が空飛ぶのではないかなど、非現実的かもしれませんが、そういった未来も想像することができました。次に私達に何ができるのかについてですが、公共交通機関を皆さんで利用しようということです。今、みきゃんアプリというものが出ています。電車やバスを利用いただく方が少ないと、設備投資にはお金がかかるので、二の足を踏んでしまうことになりませんが、利用する方が増えるとそういったことも進んでいくと思います。また、私達に何ができるかということからは離れますが、補助金の活用を挙げています。企業への補助のほか、例えば松山市民に「月々いくらまでなら電車・バスでどこへ行くのにも、この券が使えますよ」といった交通券を配布すれば利用が増えると考えました。

【市長】 ありがとうございます。大阪万博で空飛ぶクルマが披露されると言われていますから、10年後20年後は自動運転の電車やバス、タクシーなどがもう走っているのではないかと考えています。松山にはわがまちメールという松山市長へのメール制度があって、よく全国共通のSuicaに関するメールが来ます。交通事業者からは、ソフト開発やシステム改修、各駅への設備投資などに多額の費用を要するため、老朽設備の更新や生活路線の維持確保も厳しい経営状況下では実現が難しいという答えが返ってくるのですが、全国共通の電子決済の導入は観光客や市民の皆さんの利便性の向上につながるので、引き続き交通事業者にも働きかけていきたいと考えています。SuicaやPASMO、ICOCAなどの交通系のICカードは、松山城や二之丸、道後温泉本館、椿の湯、飛鳥乃湯泉、坂の上の雲ミュージアム、子規記念博物館、市民課の証明書の交付手数料の支払いに使えるようにしていますので、できるだけ進めていきたいなと思っています。それから、路面電車は全国18都市にしか走っていません。市の数がおおよそ800と言われていますが、その中で18都市にしか走っていないので、大事にしたいと思っていま

す。免許返納しても移動ができますし、排気ガスの関係でいうと路面電車は環境にも配慮しています。路面電車は、まちの雰囲気も作ってくれていますので大事にしていきたいと思っています。

【男性】 1つお聞きしたいことがあります、うちの祖母はもう86歳になりますが、公共の交通機関をよく利用しています。ただ、路線がないエリアがあります。徒歩では行けないので毎回私や他の家族が送迎しています。例えば平和通りなどで、今後公共の交通機関を通す見通しはありますか。

【市長】 松山市の中では平和通りはまだ行き来がしやすいところなのですが、山間部や島しょ部では、堅い言葉ですが「過疎地有償運送」という事業を行っています。興居島だと「私がやりましょう」という方が運転をしてくださっていて、いわゆる白タク営業になってはいけないので、ちゃんと許可があって営業しています。バス路線がなくなった地域では乗り合いタクシーなど、「なくなってしまって残念だね」ではなく、「何ができるだろう」ということを考えて島しょ部や山間部の足を確保するという形で取り組んでいます。限りもありますので、平和通りは少し難しく、工夫が必要かなと思っています。

3班：理想的な「買い物・商業」の未来の姿について

【男性】 3班は、「買い物・商業」の未来をテーマに今回考えさせていただきました。未来像は「四国一人が集まる松山」ということで、2班とたまたま重複しているのですが、私達も四国一をテーマに入れました。日本一が良いという話もあると思うのですが、僕たちの買い物・商業の未来というのは、東京のショッピングモールを作れば良いというわけではなく、やはり地域の魅力を活かした中で、まず四国で一番松山に人が集まるようになると良いと考えました。そのため、四国一を未来像にしました。具体的に、四国一人が集まる松山になるにはどんな未来が理想だろうと考えたところ、まず買い物・商業面では、物が揃わなければならないと考えました。四国で一番何でも揃うショッピング施設を作りたいということを考えました。大きなショッピング施設を1つ作れば良いというわけではなく、先ほど市長のお話でもあったように、銀天街や大街道など、まちの半径1キロの商店街が松山の魅力だと思っています。外から商業施設を持ってくるだけではなく、銀天街や大街道などがもっと栄えるような、きっかけができれば良い、そこに僕たちが足を運ぶ未来が一番だと考えました。では、市街地に行く時に僕たちが一番困ることは何か話し合いました。多分皆さん普段の移動は車が多いと思います。そのような中「ここ一方通行なんだ」とか、「金曜日や土曜日は駐車できる場所がないよね」とか、「日曜日だとお昼は遠くに停めなきゃいけないよね」といった、駐車場の問題や、車の運転が難しいといった悩みもあると思います。その結果、「駐車場が大きいショッピングモールに行こう」という選択になると思いました。駐車場や交通の整備を

しっかりと進めないと、四国一人が集まるような状態にはならないので、市街地に行きやすい交通整備が重要だと考えました。その上で、四国一人が集まる松山に来るのであれば地元が元気なことが大切だと考えました。松山が元気になるためには、どうやって買い物・商業で貢献できるのかと考えると、地産地消だと思います。行きやすい場所が整い、買い物できる場所があって、しっかり地産地消できる環境作り。ここが整って初めて四国で一番人が集まる元気な松山になると思います。私達はこの3本柱を考えましたが、「後は松山市によろしくお願いします」というわけではなくて、自分たちに何ができるのか考えたときに、普段家でスマートフォンを開いてインスタグラムで今日のニュースがないかなど、携帯電話を使ってSNSで情報を得ています。SNSであれば、松山の情報を個人で発信できます。そこで、「こんなショッピングできる」「こういうものを買うならここが良いよ」というような、僕たち1人1人がより買い物についての情報を発信する手段としてSNSを活用すると良いと考えました。そして今回、このような機会をいただきましたが、やはりもっと松山市の政策に興味を持って、しっかり意見を出し、アンケートに答えるなど、声を出すことも僕たち1人1人にできることだと思います。また、皆さんが買い物するときに何で支払っているかという、現金払いが一番多い中で、僕たち若者であればキャッシュレスも増えてきていると思います。ただ、僕たちの親や、おじいちゃん、おばあちゃんの年齢だと、スマートフォンを使うのは難しく未だに小銭を一生懸命出してくれる方もいらっしゃるのです。僕たちがもっと「キャッシュレスは便利だよ、これだけやっておけばすぐ使えるよ」というような啓発活動をしていけるのではないかと考えました。このような活動をすることで、10年後20年後にもっと買い物しやすい松山になるのではないかと考え、この3つを挙げさせていただきました。最後になりますが、買い物・商業をテーマに話し合った際に、普通であれば「何か大きいモールができたら良い」という意見が出るはずなのに、みんながもっと松山が元気になる方法を考えているように感じました。僕たちが今松山で仕事をして、暮らしているのは、松山が好きだからだと思います。だからこそ、松山を元気にする方法を考えることがスタート地点だと思いますので、しっかり10年後20年後を見据えて、元気な四国一人が集まる松山を目指していきたいと思いました。

【市長】 ありがとうございます。公の仕事と民の仕事というのがありまして、私は元々民法放送局で働いていましたから、民の仕事に携わっていました。今、公の仕事に携わらせていただいているのですが、明確に感じるのは、「これは民間さんがやった方が得意だよ、上手にされるよね」というところはあるということです。実際、ショッピングモールや飲食店を行政が作ることは、既存のお店もありますから、公のすべきことか、民間のすべきことかという、やはりちょっと難しいと思います。なので、皆さんのご希望は、民間の開発業者に投げかけてみたいと思っています。実は、昨日一昨日と熊本市さんに出張に行かせていただきました。熊本の市長は私とちょうど同い年で仲良くさせていただいています。市の大事な仕事の1つに、皆さんの生命と財産を守

るということがあります。熊本地震で大変な被害を受けたところですので、生の声を聞かせていただくということで熊本市に行かせていただいて、市長と全部で4時間喋ったのですが、熊本市さんすごいですね、勉強になりました。行かれたことがある方もいらっしゃるかもしれませんが、商業施設の1階に新しいバスターミナルがあって、併設する熊本城ホールという施設の2階に800人入る新しいシビックホール。市民の皆さんが利用するには800人くらいの規模が良いのだそうです。そして同じ2階で商業施設のフロアに繋がっています。熊本城ホールの4階に2,300人規模のメインホールというのがある、お隣にホテルがあるという、複合施設です。各地の良い事例を勉強させてもらいながら、松山駅に生かしていきたいなと思っています。公でやるべきこと、民間でやるべきこと。これは逃げじゃなくて、公でやるべきことはしっかりとやっていきたいと思っています。

4班：理想的な「働き方・就職・仕事」の未来の姿について

【男性】 我々は未来の仕事についていろいろ考えてみました。未来像は「自由なまち」としているのですが、この「自由」にはお金の自由、働き方の自由、職種の自由が含まれています。1つ目は「都会に見劣りをしないよりよい賃金水準のまち」、2つ目は「投資・起業を含め、魅力的な仕事、働き方の選択が多いまち」、そして最後に「すべての職種でどこでも働けるまち」です。まず1つ目の賃金水準に関して、決して松山市が全国的に見て高い数字ではないため、しっかり賃金水準を引き上げて10年後20年後に若者に選ばれるまちにしたいと思いました。今の若者の就職意向の一番上位に「お給料の良い企業で働きたい」ということがあります。続いて働きがいのある仕事をしたいという意見がアンケート等で非常に多く出ていました。働きがいを求めるためには何が重要なのかについては、例えばリモートワークができる職種とできない職種がある中で、どんな職種でもリモートワークができる、働く場所を選ばずに多くのニーズに応えられることが挙げられます。またサラリーマンとして勤めることももちろんですが、起業や投資家の育成も含めたまちづくりができれば良いなと思いました。自分たちに何ができるのかというと、あまりリンクしない部分もありますが、まず給与水準に関しては、例えば出来高の報酬制を採用することで、しっかりお金を稼ぐことができる人が現れる職場があって良いといった意見や、起業・投資についても投資家が出てくるような教育制度を考えることも良いといった意見がありました。最後の「すべての職種でどこでも働けるまち」については、どうしても製造業等は難しいという意見もありましたが、そういったものを作っていくためにもっと若い人たちや起業家がしっかり行政に関わって、例えば選挙に行ったり、政治家として立候補したりすることが大切だといった意見が出ました。

【市長】 ありがとうございます。コロナ禍では、リモートワークが定着してパソコン

とネット環境があれば、全国どこにいても仕事ができる環境になりつつあると思います。首都圏の大企業の中には、全国どこに住んでもいいですよという会社も出てきていますので、サテライトオフィスや、「転職なき移住者」を呼び込んでいきたいと思っています。松山市では、スタートアップや起業の支援のために松山しごと創造センターを設置してワンストップで相談できる体制を整備し、今までに5,000人近くの方が相談に訪れて、257の方が創業しています。スタートアップはこれからますます重要になると思っていますので、市内企業に大きくなっていただく、市外の企業に松山市に来ていただく、そしてスタートアップの支援をしていくことにしっかりと目配りをしながら取り組んでいきたいと思っています。市内で人手不足の企業が結構ありますが、都会では複業していいですよという企業もあります。松山市が市内企業と複業人材のマッチングをすることで人材不足の解消や、関係人口の増加につながるため、今までに60件ほどマッチングをしています。これからもこういう取り組みを進めていきたいと思っています。皆さんと気持ちは一緒だと思います。前回のワークショップの付箋に、育休を取った人の周りの人を守るシステムがあれば良いといったみたいな議論があったと思うのですが、具体的な内容を教えていただけますか。

【男性】 弊社の方でも最近、男性で休暇を取得する方も増えてきたのですが、2週間くらいの休暇が現実的で、やはり女性と同水準程度の休暇を取りたいと思いました。松山市で男性の育休取得を支援してもらえると、より取得しやすくなると思うのですが、いかがでしょうか。

【市長】 松山市は、男性の育児休業取得100%を目指し宣言しました。こどもまんなか社会を作っていきたいと思い、職員にはどんどん取得するよう言っています。市役所や県庁は先んじて進めなければいけないと思いますので、この取り組みが市内企業に広がっていけば良いと思っています。「男性が」とか「女性が」という話ではなく、1人で抱えるように子育てをしていたらもう堪らないです。うちも2人子どもがいますが、2人で手分けして育てました。周りの方が手伝ってくれたらもっと良いです。「きょういく」という言葉で、教育委員会の教育の字もあるけど、「共に育つ」という字もあります。子どもも育つし、親も育つ。子育てをすることによって、親も立派な親になっていきます。育児休暇は休暇ではなく、いろんなことを学んでいる期間だと思いますので、こういった取り組みは市役所でも大事にしたいですし、市内企業さんに広がっていけばと思っています。

理想的な「教育・子育て」の未来の姿について

【男性】 5班は理想的な「教育・子育て」分野の未来の姿について検討しました。理想の未来像は「あたたかさのあふれる松山」です。子育てをするにあたって、地域や親、行政、企業など、それぞれが子育てに対して寛容になって、あたたかさのあふれるまち

になることが理想だと考えました。ワークショップの中で、まず子どもの遊び場の話が出ました。公園はいろいろありますが、騒音の問題や、安全性などの面から遊具が撤去されたり、ボール遊びができなくなったり、今年の夏もそうだったのですが温暖化で高温になっているため夏の昼間の公園は無人のような状態で、やはり遊び場が少ないという意見がありました。その中で、子どもたちが室内で気軽に遊べるような施設などがもう少し増えると親子で遊べる場所も時間も取れるという意見が出ました。あとは気軽に使える育児サービスなど、社会の仕組みがもっと整ってれば良いという意見がありました。保育所などの待機児童はだいぶ少なくなっていると思いますが、なかなか希望するところに入れないという問題がまだ残っていますので、やはり利便性の良い、希望するところに行ける限り入れる仕組みがあると良いと思います。また社会の仕組みとして、男性がもっと育児休暇を取って、子どもと親と一緒にいられる時間が日本で一番長く取れるようなまちになれば良いという意見がありました。あとはコロナ禍で進んだ部分はあると思いますが、学校教育でデジタルやオンラインの活用が進めば良いという意見がありました。例えばもっとオンラインで授業が受けられるとか、最近不登校のお子さんも増えてきていると思うので、不登校の方でも学ぶことができる仕組みなど、取り残されない社会を作っていく必要があるという意見が出ました。また、学校生活はなかなか見えない部分が多いですが、オンライン化によって子どもの授業の様子が見られるとか、さまざまな学習の様子が分かる仕組みも必要だという意見が出ました。社会全体がもう少し教育に対して興味を持ち寛容になって、あたたかさのあふれる松山になれば良いと思います。

【市長】 今ちょっと気づきがありました。多分この温暖化は続いて元に戻ることはないだろうと思います。そこで、街中で遊べる子どもの遊び場というのが、松山駅のそばにあると良いのかもかもしれないと思います。温暖化が続くと思うと、室内の子どもの遊べる場所があると良いというのは1つあると思いました。問題は、作ろうと思ったらお金がかかります。子どもは次々大きくなっていくので、飽きないかという問題はありますが、研究させていただきたいと思いました。全国で保育士不足なのですが、うちの姉が幼稚園の先生だったので、昔は私も子どもの出欠のシールを貼る手伝いをしていました。今は保育所にICTを導入してすごく簡単にいろいろな作業ができるようになっていきます。また、子育てで悩まれるお父さんお母さんもいるので、LINE相談窓口でいつでも相談できるようにするなど、便利なものはどんどん取り入れていきたいと思っています。今学校ではGIGAスクール構想という国の政策で、小中学生全員に1人1台端末が導入されています。令和2年度末で全部導入されてもう5年が近づくのですが、国が「もうあとは知りません」というような雰囲気になりそうなのです。5年くらい経つと物も古くなって新しくしないといけないし、壊れることもあります。ハード面でもソフト面でも必要なものがあるので、我々市長の立場から国に「ちゃんと最後まで面倒見てください」と言いながらICTを進めていきたいと思っています。12月1日から松山市の子ど

もの医療費は高校卒業まで、18歳まで無料になりますが、こういった子どもを産み育てやすい環境をこれからも作っていきたいと思います。

【男性】 私は子どもが1人いて、妻が出産する際に何回も病院に送り迎えをしていたのですが、かなり待ち時間が長くて、相当病院が混んでいました。1回行くと3時間かかり、ちょっと検査が必要だともっとかかるので、出産施設についても、産む前からハード的には必要だと実感しています。

【市長】 ありがとうございます。医師に聞くと、裁判のリスクがあって産婦人科や小児科の担い手がなかなか見つからないそうです。保育所に行っているお子さんが病気になったらいつもの保育所に預けられず、仕事の関係で自分も看られない時に利用できる病児・病後児保育を今まで市内中心部、東部、南部、西部で設置してきました。西部では高齢化でもう廃業しますという話があり、今回新たに北部と西部で募集したところそれぞれ申請があったので、松山市が施設整備を補助して、市内中心部と東西南北の5ヶ所で病児保育ができるようになりました。大事な取り組みだと思いますので、しっかり医師会さんとも連携しながら取り組んでいきたいと思います。

【男性】 ITに関連して病気で入院されている方や、いろいろな理由で学校に来られない方が授業を受けられるとっていたのですが、例えばリアルに特化している小学校と、完全オンライン型で家や病院で授業を受けられる学校を作ってみても面白いと思ったのですが、それは不可能なのでしょうか。

【市長】 固いことを言うと、オンラインだと先生と子どもがパソコンでつながる、ということになりますよね。一対一の関係性はできるけど、子どもたちの横の繋がりがどうだろうということが浮かびました。確か院内学級がある病院もあったと思います。できるだけ繋がりを大切にしたいので、松山では通常の学級と特別支援学級の方が一緒に授業を受けられるように学校にエレベーターを設置するなど、体が不自由でも一緒に学べるよう取り組んでいます。いろいろなニーズがあると思います。オンライン型の仕組みを施行するのも1つだと思いますし、リアルに繋がることで補完しながら実施するという形もあると思いました。

【男性】 僕も横の繋がりが一番難しいと思ったのですが、今の時代はネットで全然会ったことない人と話せるとか、普段の地域では会えない方と友達になれるなど、直接会わなくても横の繋がりを作る方法もあると思います。リアルで会いたくても、会うのが難しい方もいらっしゃると思うのですが、ネットを使った横の繋がりが構築され、成長につながり、その人の魅力が最大限引き上げられるコミュニケーションもあると思うので、ぜひ検討いただきたいと思います。

【市長】 ありがとうございます。コロナで新たな気づきも生まれて、昔だったら遠いところから立派な先生に来てもらって講演してもらっていましたが、もうオンラインも可能になっているので、メリット、デメリットを見極めながら進めていくことが大事だと思います。

まず感謝を申し上げたいと思います。皆さんご自身のお仕事がありますのにワークショップにも参加していただき、今日も貴重な時間をいただき、本当にありがとうございます。私だけではなく、担当部の幹部、職員もしっかりと聞いていますので、私はいろんなことが頭に出てきて上手な答えができなかったかもしれませんが、しっかりと受け止めさせていただきます。10年に1回の総合計画を新たに策定するのですが、これまで子どもや孫によりよい松山を残していくという気持ちで取り組んできました。まさに皆さんの世代がこれからの松山を背負って立ちます。だから皆さんの声を聞かせてほしいのです。「今日言えなかったわい」という方もいらっしゃるかもしれませんが、皆さんの意見をしっかりと受けとめさせていただきます、今後の計画に反映していきたいと思ひますし、今後のまちづくりにも反映していきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。これから街で会うこともあると思ひますが遠慮なく声をかけてください。「あのとときのタウンミーティングで会いました、あときは言えなかったのですが私はこう思ひますよね」と遠慮なく言ってください。また、松山市には市長へのわがまちメール制度もあります。意見を言うていただいたら、今日みたいに気づきもあり、職員の皆さんに専門的に検討してもらふこともできます。市民の皆さんの役に立つ市役所でなければいけないと思ひますので、敷居を高くせず、「どうせ市役所に言つても一緒」なんて思わずに、「こういうやり方もできますよ、こんな情報提供もできますよ」と、いろいろなことができると思ひますので、遠慮なく言うていただけたらと思ひます。本当に今日は貴重な時間をいただきありがとうございました。

—了—